

【事業実績】

1. 「美術で学ぶ平和教育プログラム」の拡充と普及

① 授業活用のための教員向けレクチャーの実施

2022 年度に作成した鑑賞授業案と鑑賞ツールの利用促進を目的とした教員を対象とした説明会を実施した。

◆鑑賞体験・レクチャー「作品のみかたを探る」ティーチャーズデイ（2023/6/25、長崎県美術館、参加者：23 人）

◆鑑賞体験・レクチャー「作品のみかたを探る」in 五島市（2023/8/23、福江文化会館、参加者 5 人）



◆ティーチャーズデイ / 長崎県美術館



◆「作品のみかたを探る」in 五島市

「丸木作品はテーマ性がはっきりしている分、感情や倫理、経験に引っ張られやすい鑑賞になると感じた。特に長崎の人は平和教育の見方になると感じる」「対話的な学びが大切にされているこの時代に紹介していただいたアートカードゲームは取り入れやすい。」「同じ絵でもみる側によって感じ方が違い、人権教育にも通じる。」（アンケート結果より）

② 授業案を活用した鑑賞プログラムの実施

利用申込をいただいた団体には鑑賞ツール利用のためのパスワードを提供し、プログラム実施後アンケートによるフィードバックをもらった。当館職員がオンラインでつないで授業実施をしたり、授業参観をしたり先生方と授業前後での検討協議を重ね、それぞれの学校のニーズに合わせた授業案活用に協働した。

事例 1：鑑賞プログラム「アロージョさんの作品をみてみよう！」（2023/7/18、保育園、年長児 21 人）

事例 2：美術科「美術でつなげる平和の願い」（2023/7/3～7、中学校 1 年生 4 クラス、延べ 161 人）

事例 3：現代の国語「考えを共有していくために」（2023/12/8～19、高等学校 2 年生 3 クラス、延べ 79 人）

事例 4：公開特別講座「日本語で楽しむ美術鑑賞」（2023/12/23、大学、一般・日本語を勉強中の方、3 人）



事例 1



事例 2



事例 3



事例 4

「総合的な学習の時間」に位置づけられている「平和学習」と連動し、美術科での授業実施後に美術館を訪れ、展示室内での鑑賞プログラム体験を実施。

「作家が亡くなっても後世に残り続けるのが美術の作品。その作家の思いや考えを後世にまで伝える力が美術の作品にはあると思う。」「自分だけで考えるのではなく、友だちの意見や美術館の人の考察を聞いて戦争や平和のことを伝えるメッセージが作品の中に描かれていることを知った。」（生徒の気づきや感想：事例 2 中学校）

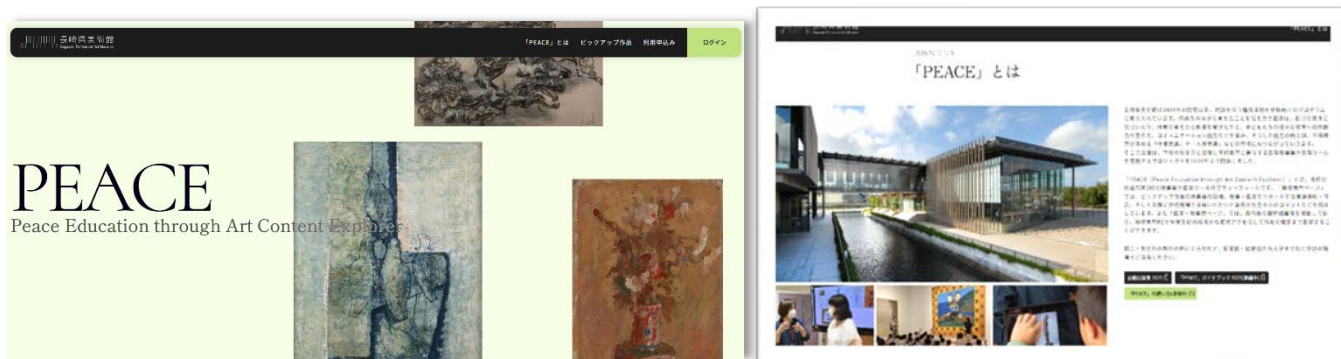
「ベンヤミンが生きた世界でもユダヤ人差別があるが、現代でも人種差別は完全に消えたわけではない。（中略）これから就職していく中、女性は家庭に入るという意識ではなく男女平等に働いてよいと思う。」「ベンヤミン、アロージョ、私たちが生きる世界の共通点は戦争によって差別や独裁政権がなくなっていないこと、相違点は戦争をおおらせようと世界が動いていること。争いがおきるのは、他人の意見を聞くことを拒絶し一方的に攻撃することによって起こる。自分も他人の意見を聞くときは否定するのではなくしっかりと聞く。」（生徒の気づきや感想：事例 3 高等学校）

2. デジタル教材開発とプラットフォーム構築

① デジタル教材開発検討委員会の実施と製作 → ③ デジタル教材の格納・環境整備

長崎県美術館所蔵作家5組について「平和教育×鑑賞教育」プログラムとしてそれぞれの鑑賞授業案と高精細画像、授業実践例を掲載したデジタル鑑賞ツール「PEACE (Peace Education through Art Content Explorer)」を長崎大学情報データ科学部の協力のもと製作した。長崎県美術館 HP 上にて公開し、誰でも閲覧可能であるが、詳細ページへ進むためには利用申込が必要。※利用申込：令和6年4月1日より開始予定

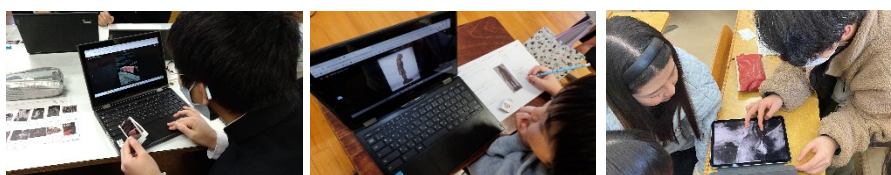
アクセスはこちら→ <http://www.nagasaki-museum.jp/school/gakkoukyosou.html>



▲「PEACE」TOP ページ

② 作成したデジタルツール教材の活用

遠隔地域である五島市立久賀中学校 (2023/12/13)、波佐見町立中央小学校・東小学校(2023/11/29)、長崎外国語大学 (2024/1/9) にて新たに作成した授業案と画像を用いて美術館職員がモデル授業として実施した。



◀授業のようす
左より五島市立久賀中学校、波佐見町立中央小学校、長崎外国語大学

④ 収蔵作品や作家に関連する情報収集のための現地視察と調査

「PEACE」の製作にあたり、ピックアップ作家に加えた丸木位里・俊と舟越保武の調査のため、原爆の図 丸木美術館 (埼玉県) と岩手県立美術館を訪問し、関連作品の実見や担当学芸員との情報交換を行った。

3. 成果報告

① 授業実践校の事例公開

「PEACE」に授業案や鑑賞ツールを活用した学校の実践事例を紹介するページを設置。池野清：2件 (内訳 小2)、アロージョ：5件 (内訳 幼保・小・中・高 各1)、舟越保武：2件 (内訳 小2)、東松照明：2件 (内訳 小・大 各1) を掲載。※今後は授業アイデアや実践事例を追加予定

② PEACE 開発者と鑑賞ツール利用者による座談会の開催

それぞれの立場から作品画像を使った鑑賞の手応えや美術作品のデジタル化についての課題と成果、教科横断型の授業提案、「PEACE」の運用に向けて意見交換した。

実施日 | 2024年1月7日 (日) 13:00~15:00

開発者 | 金谷一郎 (長崎大学情報データ科学部教授)、山口百合子 (長崎県美術館事業企画グループ)

利用者 | 宮崎友理子 (たちばなこども園保育教諭)、中島素子 (県立島原工業高等学校国語科教諭)

コメンテーター | 山岸利次 (長崎大学人文社会科学域教育学系准教授)

③ 記録集作成・発信

3年間のプロジェクトのあゆみや「PEACE」の内容紹介をガイドブックとしてまとめた。使い方を掲載したリーフレットと併せて作成し、PDF データを web 上で公開。



◀「PEACE」ガイドブック



▲座談会のようす